

式 辞

例年になく厳しい春の嵐が過ぎ、合瀬川の桜も散り初めの頃を迎え、春の訪れが感じられる今日の佳き日、PTA副会長の佐藤理恵子様はじめ、PTA役員の皆様のご臨席を賜り、保護者の皆様とともに、愛知県立小牧南高等学校第四十六回入学式を挙行できますことは、教職員にとりましても、大きな喜びでございます。高い席からではありますが、本校を代表して、心より厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様方におかれましては、これまで慈しみ、大切にはぐくまれてこられたお子様が、本日めでたく高校へご入学され、感慨深くお喜びのことと存じます。心からお祝い申し上げます。

さて、ただ今入学を許可した新入生の皆さん、入学おめでとう。教職員一同、皆さんの入学を心から歓迎します。皆さんは、今日から高校生となりました。新しい制服に袖を通した今、これから始まる高校生活を前に、胸が高鳴っているのではないのでしょうか。そんな希望にあふれた皆さんと、これから毎日の生活をともにしていけるのは、私たちにとっても、たいへん喜ばしいことです。どうか、今の新鮮な気持ちと、ほどよい緊張感を忘れずにこれからの三年間、しっかりと勉学に励んでください。私たちは、この学校で自らを鍛

えたいという皆さんの志に敬意を払い、皆さんの夢や希望の実現のために、精一杯手を差し延べていきたいと考えています。

本校は昭和55年に開校し、以来46年に渡り、自他ともに認める進学校として1万4千人を超える卒業生を輩出してきました。各界における卒業生の活躍に、地域の皆様から厚い信頼を寄せいただいております。新入生の皆さんも、先達に続き自らを高めることで、本校のさらなる飛躍にも貢献してもらえたと信じています。

本校の校訓は、「知(ち)・行(こう)・恕(じょ)」と言います。最初の二文字、知と行は、「知行合一(ちこうごういつ)」という四字熟語で、「知識と行為は一体である。知っているだけで実践しないのは本当の知とは言えない」という意味です。皆さんには、学んだことを実行することで、知識を確かなものにしてもらいたいと思います。

三つ目の文字「恕」は、中国古代の思想書『論語』にその出典を求めることができます。儒家の始祖である、孔子が、人が一生涯を通じて実践する大切な言葉は何かと尋ねられた時、「それは恕(じょ)である。」と答えたと言われています。自分がされたくないことを人にしてはならない、という戒めです。このエピソードから、恕とは一般に「思いやり」、英語では consideration 或いは sympathy 等と

訳すことができます。グローバル化が進展し、民族や文化、宗教間の違いが顕在化する現代社会においては、この「恕」という概念は、論語が生まれた二千五百年前にも増して、重要な意味をもっていると思われまます。皆さんには思いやりの心を大切に仲間と助け合うことで、日々「恕」を実践し、社会に出た時に、粘り強く、諦めることなく、他者とつながり、他者と他者とをつないでいく、そんな働きができるように成長してほしいと強く願います。

さて、実は、私はこの春、校長として勤めていた別の県立高校から転勤をして、この小牧南高校に赴任したばかりです。皆さん同様まだこの学校のことをよくは知らないのですが、牧南のことを熟知していた前任の校長先生のお話の中から言葉をお借りして、新生活を前にした皆さんへのエールを贈りたいと思います。

「壺中（こちゅう）の天」という古い中国のおとぎ話です。

その昔、ある役人が、市場で薬を売る老人が壺の中に入るのを目撃しました。普通に考えれば人が入れるような大きさの壺ではありません。不思議に思ったその役人は、後日老人に頼んで、自分も壺の中に入ったところ、中には素晴らしい世界が広がっていました。

ここから、「壺中の天（≡つぼの中の天国）」とは、現実とは異なる

る、「別世界」、或いは「別天地」という意味で使われています。

学校とは、まさに「壺中の天」。校門をくぐれば、そこには仲間がいて、見習うべき先輩がいます。また、愛情豊かな先生方がいます。この別世界には誰もが入れる訳ではありません。皆さんは、この素晴らしい「別世界」で、自らの限界に挑戦し、様々な壁を乗り越えて将来の夢を叶える力を身につけていくことができます。

一方で、壺中の天には別世界であるがゆえの、現実の世界とは異なる約束事があります。例えば、携帯電話の使用や娯楽の制限などです。しかし、本校で夢を実現しようとする皆さんであれば、こうした約束事を理解できるはずです。まずは、壺中の天のしきたりに慣れ、一日も早く高校生としての学習習慣を身につけてください。

最後に、高校進学に際しては、将来の進路について深く考えて志望校を選択したはずですが、本校でも卒業後の進路決定に向けて、皆さんの意志を定期的に確かめていきます。しかしながら、矛盾するように聞こえるかもしれませんが、本来、学びというのは、その価値を理解していないからこそ学ぶ意味があるのであって、学ぶ意味が分からないから、このことは学びませんという選択を学習者自身ができる立場にはない、ということも心の隅にとどめておいてほし

いと思います。目指す目標が定まると、ともすればそこに向かって一直線、効率的に進みたくなるものですが、それは学びの本質を考
えるときに、諸刃の剣となり得ます。本校は、普通科進学校ではあ
りますが、進学に特化した「効率的な」学びのみを提供する学校で
はありません。今日から牧南生となった皆さんには、何でも吸収し
ようとする心構えでこれからの生活を送ってほしいと思います。

保護者の皆様、今日から、大切なお子様を、日中の貴重な時間、
お預かりします。教職員一同、精一杯取り組んでまいりますので、
どうかご協力をお願いいたします。学校教育は、家庭教育との連携
によって、より高い効果が発揮されるものです。これから三年間、
喜びも心配も、ご家庭と共有させていただければと存じます。特に、
困った時、迷った時には、どうぞいつでも相談をしてください。

結びに、本校のさらなる飛躍のために、格別の御理解と御支援を
賜りますよう重ねてお願い申しあげるとともに、新入生の皆さんの
三年間が楽しく、そして、充実した日々となることを祈念し、式辞
といたします。

令和七年四月七日

愛知県立小牧南高等学校長 井上 猛